

# 訪問看護ステーションあやめ矢板

矢板市木幡1370番地3 パルネット数間101



管理者  
中山 文江 様  
利用保険割合  
医療保険・10割

設立から1年経ち、地域との信頼関係が感じられました。精神疾患を抱える方や御家族、支援者にとっても、専門的な視点からサポートしてもらえる訪問看護ステーションの存在は頼りになりますね。(記者より)

## 施設のアピール

訪問看護ステーションあやめ矢板は、令和2年5月に開設された精神科特化型のステーションです。(株)ファーストナースが母体となり、スタッフは看護師4名、相談員1名で運営しています。精神科経験の豊富なスタッフが多数在籍しており、安心して御利用いただけます。特に男性看護師が2名在籍していますので、何かのときにも安心です。

私たちは第一に御利用者様、御家族様が笑顔でいられることを大切にしています。そのために社会復帰支援や家族支援など地域生活のサポートを行っています。



運営責任者の手塚さん(Ns)にお話を伺いました。

## 連携している主な医療機関

岡本台病院、室井病院、佐藤病院、那須高原病院、氏家病院、烏山台病院、那須こころの医院、ときながメンタルクリニック等県内の精神科医療機関と密な連携を図っています。

## 施設の役割や特徴について

〜訪問看護が潤滑油になる〜  
精神科特化型の訪問看護と言われても、一体何をしてくれるのだろうか？と疑問を持たれる方もいらっしゃると思います。

まず本人への支援では、バイタルサインの確認、服薬確認、本人の表情などを観察します。またコミュニケーションのきっかけとして、オセロやトランプ等ちょっとしたレクリエーションを取り入れて、本人の反応を引き出しています。散歩するとき、表情の変化や何を見ているか、関心が向いているものは何か観察しながら関わり、外との接点を作っています。



ステーションは市役所にも近い閑静な住宅街にあります。

だんだん調子が良くなってくると「もう治ったんだ。」と勘違いし自己放棄(中断)される方もいます。また入院中は活動量が少なかつたけれど、自宅では増える方もいますので、内服薬の管理と本人の状態把握は重要です。医療機関には、そういった訪問看護の経過をまとめて情報提供し、外来診察で薬剤調整の参考にしていたり、時には利用者様の受診に同行して主治医の指示を仰いだりしています。

また身体科の内服薬も併せて確認し、全身状態を把握しています。私たち訪問看護は医療機関と利用者様の潤滑油にならない!と思って丁寧に関わっています。

その他に御家族への支援も忘れてはなりません。愚痴を聞くとときもあれば対応の仕方を具体的にアドバイスすることもあります。家族が安心して様子を見ると、御本人も安心するし、看護する側も嬉しくなります。そんなとき、やりがいを感じますね。

## 心に残った患者さんとのエピソード

〜介入のタイミングが肝心〜  
ある地域包括支援センターの方から、急性うつ病の高齢女性のことで相談がありました。その方は独居で近くにキーパーソンとなる家族はおらず、

支援者も対応に困っていました。

あやめ矢板では相談を受け、本人の様子を見ながら医療機関への受診を促し、週3回の訪問を始めました。最初は食事、トイレも精一杯。経済状態も含めて生活全般に支援が必要な様子でした。それでも訪問を継続していくうちに、だんだん慣れてきて笑顔が見られるようになりました。訪問を開始して3〜4か月もすると、すっかり状態は落ち着き、近所の人と話したり、外に出かけられるようになり訪問看護を卒業することができました。

重症化せず回復につながれたのは、タイミング良く介入できたことが大きいと思います。地域支援者との連携は大切にしていきたいですね。



事務所は相談しやすい、落ち着いた雰囲気でした。